

1.2030年のあるべき姿

(1) 計画タイトル

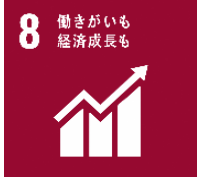
姫路市SDGs未来都市計画 ～世界をつなぐSDGs推進都市ひめじの夢～

(2) 2030年のあるべき姿

SDGs未来都市計画を推進することにより、世界遺産国宝姫路城に頼るだけでなく、国際人材を育成する先進都市を目指す。当市で郷土愛を育み、脱炭素型のライフスタイルを身につけたSDGsマインドを持つ若者が、姫路地域で活躍しつつ、世界と本国をつなぐ「架け橋」となっている姿を目指す。

【方向性】 産業～世界に誇れる価値を生む地域産業の確立～【経済】
市民活動～多様な主体が輝くまち～【社会】
環境～環境にやさしいまち～【環境】

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経 済		社 会		環 境		
						

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

	KPI (指標)	当初値		最新実績値		目標値		達成度	達成度計算式
経 済	市内総生産 (名目)	2兆4,031億円	2017年度	2兆6,569億円	2023年度	2兆8,837億円	2030年度	52.8%	$\frac{\text{最新実績値}-\text{当初値}}{\text{目標値}-\text{当初値}} \times 100$
社 会	定住人口	535,664人	2015年10月	514,768人	2026年4月	518,000人	2030年10月	99.4%	$\frac{\text{最新実績値}}{\text{目標値}} \times 100$
環 境	市域の温室効果ガス排出量の削減	11,188kt-CO ₂	2013年度	8,830kt-CO ₂	2022年度	5,813kt-CO ₂	2030年度	43.9%	$\frac{\text{当初値}-\text{最新実績値}}{\text{当初値}-\text{目標値}} \times 100$

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題

【市内総生産（名目）】

・当初数値からは約10.6%増加しているものの、対前年度比（前年度2兆8,096億円）で約5.4%減少している。目まぐるしく変わる社会のしくみの変化に素早く対応していく柔軟な企業経営の確立の促進や、「ものづくりのまち」としての認知度の向上を通して、市内企業の製品の高付加価値化や人材確保、企業誘致等を進めていく。

【定住人口】

・ピーク時（2009年11月：536,576人（推計人口））から、約2.2万人減少し、年々減少傾向にある。要因としては少子高齢化による自然増減数のマイナス、若者（10代～20代）の東京圏や大阪府への流出が主な原因と考えられる。2024年度に作成した「ブランドメッセージ・ロゴ」を旗印として充実した子育て環境や、都市と自然が調和した居住環境など本市の多彩な魅力を広く発信することで市民のシビックプライド醸成と都市イメージの向上を図るとともに、子どもたちがいきいきと活躍できる教育環境の整備等に取り組み、「住んでみたい、住み続けたいまち」を目指す。

【市域の温室効果ガス排出量の削減】

・2023年3月に「姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を改定し、国や県の計画と整合を図りつつ2030年度の温室効果ガス削減目標を引き上げた。（2013年度比26.1%→48%）

・2013年度から2022年度にかけて2,358kt-CO₂削減できており、目標の達成に向けて市民・事業者の取組促進や再エネの導入促進など多様な分野で更なる脱炭素施策の強化を図る。

（１）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

取組例		KPI（指標）		当初値		最新実績値		目標値		達成度	計算式
経 済	・ 将来のSDGsを牽引する産業人材の育成 ・ 多様な人材が活躍できる労働環境づくり ・ 地域経済の持続的発展を支える企業集積の推進と創業支援 ・ 新製品・新技術の開発や成長産業への参入と脱炭素化への投資促進 ・ 多様な担い手の育成（IoT等、先端技術を活用した生産性の向上） ・ 良質な交流を生み出す観光の推進と体制構築 ・ 姫路の歴史的・文化的な魅力を伝えるシティプロモーションの展開	①	製造品出荷額等の全国シェア（３年平均）	0.74%	2016～2018年	0.78%	2021年～2023年	0.74%	2024～2026年	105.4%	$\frac{\text{最新実績値}}{\text{目標値}} \times 100$
		②	製造品出荷額等の県内シェア（３年平均）	14.97%	2016～2018年	15.60%	2021年～2023年	14.97%	2024～2026年	104.2%	$\frac{\text{最新実績値}}{\text{目標値}} \times 100$
		③	市内従業者数	244,970人	2016年	256,076人	2021年	256,076人	2026年	100%	$\frac{\text{最新実績値}-\text{当初値}}{\text{目標値}-\text{当初値}} \times 100$
		④	農業産出額（推計）	6,330百万円	2018年	7,450百万円	2023年	6,180百万円	2026年	120.6%	$\frac{\text{最新実績値}}{\text{目標値}} \times 100$
社 会	・ 国際感覚豊かな人材の育成 ・ 国際交流・協力活動のさらなる活性化 ・ 次世代の文化芸術を担う人材の育成 ・ 伝統文化継承のための取組の推進 （※）アクリエひめじ*、キャスパホール、市民プラザ、バルナソスホール、平和資料館、水族館、姫路科学館、美術館、姫路文学館、書写の里・美術工芸館、埋蔵文化財センター *当初数値は、アクリエひめじ稼働前であったため、文化センターと音楽演劇練習場の入館者数を合算	⑤	東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）・大阪府への転出超過数	994人	2019年	1,122人	2025年	731人	2026年	▲48.7%	$\frac{\text{当初値}-\text{最新実績値}}{\text{当初値}-\text{目標値}} \times 100$
		⑥	国際交流イベントの参加者数	20,958人	2019年度	9,575人	2025年度	21,000人	2026年度	▲27,102.4%	$\frac{\text{最新実績値}-\text{当初値}}{\text{目標値}-\text{当初値}} \times 100$
		⑦	文化拠点施設（※）の入館者数	1,338,401人	2017～2019年度平均	1,488,598人 （速報値）	2025年度	1,684,000人	2026年度	43.5%	$\frac{\text{最新実績値}-\text{当初値}}{\text{目標値}-\text{当初値}} \times 100$
環 境	・ 水素エネルギーの利活用に向けた環境整備 ・ 強靱性（レジリエンス）の向上に資する環境活動の推進 ・ 地域循環共生圏の拡充 ・ 地球温暖化対策に寄与する脱炭素型のまちづくりの推進 ・ ３Ｒ（リデュース、リユース、リサイクル）の推進	⑧	１人１日当たりの家庭系ごみ排出量	508.7 g	2019年度	460.6g	2025年度	491.7 g	2026年度	282.9%	$\frac{\text{当初値}-\text{最新実績値}}{\text{当初値}-\text{目標値}} \times 100$
		⑨	一般廃棄物の資源化率	15.0%	2019年度	14.0%	2025年度	14.8%	2026年度	94.6%	$\frac{\text{最新実績値}}{\text{目標値}} \times 100$
		⑩	一般廃棄物の最終処分量	15,573 t	2019年度	12,218t	2025年度	14,282 t	2026年度	259.9%	$\frac{\text{当初値}-\text{最新実績値}}{\text{当初値}-\text{目標値}} \times 100$
		⑪	市域の温室効果ガス排出量の削減	11,188kt-CO ₂	2013年度	8,830kt-CO ₂	2022年度	8,026kt-CO ₂	2026年度	74.6%	$\frac{\text{当初値}-\text{最新実績値}}{\text{当初値}-\text{目標値}} \times 100$

（２）「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題

【製造品出荷額等の全国シェア（３年平均）及び製造品出荷額等の県内シェア（３年平均）】 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大等の影響により低下していたが、少しずつ回復傾向にある。この傾向を維持するためにも、中小企業の生産性向上のためのIT化等を促していく。 【市内従業者数】 ・ 平成30年（2018年）版姫路市統計要覧と令和７年（2025年）版姫路市統計要覧によれば、男女ともに増加している。今後も従業者数を増加させていくため、企業誘致や事業者支援、求職者向け支援等を行っていく。 【農業産出額（推計）】 ・ 令和４年市町村別農業産出額（推計）と令和５年市町村別農業産出額（推計）によれば、「耕種」では、米、いも類、花き、「畜産」では、肉用牛、鶏の産出額増により、農業産出額が増加している。今後も農業産出額の増加に向けて、農業の担い手育成・支援等を行っていく。 【東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）・大阪府への転出超過数】 ・ 東京圏、大阪府への転出は依然として高い水準で推移しており、進学や就職等を契機に若者が大都市圏へ流出している。2024年度に作成した「ブランドメッセージ・ロゴ」を旗印として充実した子育て環境や、都市と自然が調和した居住環境など本市の多彩な魅力を広く発信することで市民のシビックプライド醸成と都市イメージの向上を図るとともに、子どもたちがいきいきと活躍できる教育環境の整備等に取り組み、「住んでみたい、住み続けたいまち」を目指す。 【国際交流イベントの参加者数】 ・ アフターコロナ時代に入り、イベント参加者数も回復傾向であったが、2024年度（15,515人）と比較すると約6千人減少している。要因としては、毎年10月に大手前公園で実施している国際交流フェスティバルへの来場者数が、雨天により例年よりかなり少なくなったためである。例年よりも参加者数は減少しているものの、引き続き多文化共生社会に向けて様々な国際交流イベントを実施していく。 【文化拠点施設（※）の入館者数】 ・ 当初数値より約150,000人増加しており、また、昨年度（1,340,479人・速報値）と比較しても、約149,000人増加している。要因としては、アクリエひめじの『アクリエひめじ冬のにぎわい2025「ホワイトクリスマス」』（約8,300人）や美術館の『「高田賢三展 パリに燃ゆ、永遠の革命児」』（約23,000人）など、かなり集客力の高いイベントが開催されたためである。より多くの方に文化拠点施設へ足を運んでいただけるよう、事業実施手法の工夫等を図っていく。 【１人１日当たりの家庭系ごみ排出量・一般廃棄物の資源化率・一般廃棄物の最終処分量】 ・ 2019年度に比べ2025年度の家庭ごみの発生量は資源化物を含め総量として減少している。 ・ 事業者に対する紙のリサイクルの啓発、食品ロス削減もったいない運動の啓発、ボトルt oボトルリサイクル事業を更に推進し、ごみ排出量の削減及び資源化率の向上を図る。 【市域の温室効果ガス排出量の削減】 ・ 「姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に基づき脱炭素関連施策を推進し、市域における脱炭素型のライフスタイルの定着や脱炭素型の企業経営の定着を図る。 ・ 「姫路市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」で掲げた目標の達成に向けて市民・事業者の取組促進や再エネの導入促進など多様な分野で更なる脱炭素施策の強化を図る。
